

	所属	部署	役職	氏名
サブリーダー	沖電気工業株式会社	イノベーション推進センター AI技術研究開発部	スペシャリスト	村田 稔樹
	京セラ株式会社	先進マテリアルデバイス研究所	所長	井上 真司
	株式会社国際電気通信基礎技術研究所	経営統括部	取締役 経営統括部担当部長	井澤 一朗
	パナソニック オペレーショナルエクセレンス株式会社	イノベーション推進センター 政策企画部	主幹	山木 健之
	株式会社日立製作所	IoT・クラウドサービス事業部 通信ネットワーク本部	主任技師	利安 忠
	富士通Japan株式会社	関西・中四国エリア本部	シニアディレクター	高山 直也
	大阪府	スマートシティ戦略部 スマートシティ戦略総務課	課長補佐	雲川 愛子
	大阪市	ICT戦略室 スマートシティ推進担当	課長	中道 忠和
	京都府	文化学術研究都市推進課	課長	後藤 幸宏
事務局兼任	公益社団法人関西経済連合会	産業部	参事	山下 善寛
事務局兼任	公益社団法人関西経済連合会	産業部	参事	樋口 昌子
事務局兼任	公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構	RDMM支援センター イノベーション推進室	担当部長	古久保 進
事務局兼任	公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構	RDMM支援センター イノベーション推進室	担当部長	藤川 英明
事務局兼任	総務省近畿総合通信局	情報通信部 情報通信連携推進課	課長	高橋 邦彦
事務局兼任	総務省近畿総合通信局	情報通信部 情報通信連携推進課	情報通信利用促進官	岡野 民江
事務局兼任	総務省近畿総合通信局	情報通信部 情報通信連携推進課	連携企画担当	増田 侑美
リーダー 事務局長兼任	国立研究開発法人情報通信研究機構	ユニバーサルコミュニケーション研究所 総合企画室	室長	香山 健太郎
事務局兼任	国立研究開発法人情報通信研究機構	ユニバーサルコミュニケーション研究所 総合企画室 企画戦略グループ	研究マネージャー	藤井 哲也
事務局兼任	国立研究開発法人情報通信研究機構	ユニバーサルコミュニケーション研究所 総合企画室 企画戦略グループ		越智 通秀
事務局兼任	国立研究開発法人情報通信研究機構	ユニバーサルコミュニケーション研究所 総合企画室 企画戦略グループ		和田 三恵

**けいはんな情報通信オープンラボ研究推進協議会
第20回 企画・広報分科会
2021年度活動報告・2022年度活動計画(案)**

2022年4月11日
企画・広報分科会

○ 分科会の構成（敬称略）

（リーダー）

香山 健太郎（NICTユニバーサルコミュニケーション研究所 総合企画室 室長）

（サブリーダー）

村田 稔樹（沖電気工業 イノベーション推進センター AI技術研究開発部 スペシャリスト）

○ 分科会の活動方針

1. 創造系活動

- ・協議会活動のメリットを最大限に発揮する新たな活動の創造
- ・定期的な会員への研究ニーズ調査
- ・研究ニーズに基づき、新たな産学官連携研究開発テーマを検討

2. 促進系活動

- ・各研究開発テーマ間の交流促進
- ・シンポジウムや施設見学会等イベントの企画・実施による産学官連携促進
- ・産業振興や市民生活向上の観点からのアウトプット活用方策検討などの成果活用促進

3. 整備系活動

- ・研究開発整備要望など研究活動推進

1. 創造系活動

- ① コロナ時代の新たな活動のあり方を検討し、オンラインでの活動を主として活動を行った。
- ② WG活動費をWGに配分し、WG活動の支援を継続した。出展費用、実験費用などに活用された。

2. 促進系活動

- ① 総会を6月16日に開催し、特別講演としてNTT川島様から「Beyond 5Gに向けた新たなネットワーク構想「IOWN」」と題してご講演いただいた。
- ② けいはんな情報通信オープンラボシンポジウム2021「遠隔コミュニケーション技術がもたらす、新たな社会的価値の創出」を2月25日にオンラインで開催し、昨年を大きく上回る243名の方にご参加いただいた。
- ③ 本協議会の活性化に向け、遠隔コミュニケーション準備WG立ち上げの準備を行った。
- ④ けいはんなR&Dフェア2021(オンライン開催)において、本協議会から「8K分身通信(遠隔身体拡張通信)」を出展し、パネル展示、Remo及びショートプレゼンにより研究活動の紹介を行った。
- ⑤ ウェブページ、動画サイトの充実により、協議会活動の一層の情報発信、普及・啓発活動につとめた。シンポジウムの講演を動画サイトから公開している。
- ⑥ 情報通信の研究開発にかかわる他団体との交流についても感染症拡大防止の観点から十分にはおこなえなかったが、引き続き情報交換は積極的におこなっている。

3. 整備系活動

- ① オープンラボ施設の充実に向けた活動として、研究開発テストベッドネットワークJGNなどのネットワーク施設の維持、整備をNICTで実施した。
- ② オープンラボ施設の広報を継続。現在4社が利用。

2021年度の活動報告-2

	2021年										2022年		
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
企画・広報分科会		● 第19回 分科会 (4/28-5/10、書面開催)											
創造系活動					WG活動支援 新規活動の計画 オンラインでの活動検討								
促進系活動		→ 総会企画準備							● けいはんなR&Dフェア2021に出展				
						随時情報発信(Webサイト&イベント案内メール送付)				→ シンポジウム開催準備			
整備系活動						けいはんな情報通信オープンラボの整備・運用							
						JGNなどのネットワーク施設整備・運用							
【協議会関連】			● 第21回 運営・研究 部会 (5/20、オンライン開催)	● 第20回 総会(6/16、オンライン開催)									● 協議会主催 シンポジウム (2/25、 オンライン開催)
						事務局打合せを月1回程度開催							

2021年度の活動報告-3 けいはんな情報通信オープンラボシンポジウム開催結果

○日時：2022年2月25日(金) 13:00～16:30
 ○Zoom Webinarによるオンライン開催
 ○視聴者数：243名 (アンケート回答件数111)
 ○主催：けいはんな情報通信オープンラボ研究推進協議会
 ○概要：近年、グローバル化が加速するとともに、昨今のコロナ禍により、遠隔会議によるコミュニケーションが広がり、遠隔コミュニケーションがニューノーマルとなりつつあります。このような遠隔コミュニケーションを可能とするXR技術と音声翻訳技術、及び、その接点に着目し、これらの技術がもたらす新たな社会的価値の創出について、産業界の第一線企業よりご講演をいただくとともに、協議会の分科会から、オープン光ネットワーク基盤WGの活動について紹介しました。アンケート結果によると、協議会会員以外の参加者が7割を占め、質疑応答も活発で、今後もオンライン開催を希望する声が多くありました。今後のシンポジウム運営等にも、引き続きこのオンライン開催のメリットを生かして参ります。

○プログラム
 テーマ：遠隔コミュニケーション技術がもたらす、新たな社会的価値の創出
 開会挨拶：内元清貴(当協議会 運営・研究部会長)
 基調講演：「人間拡張による遠隔コミュニケーションの未来」
 凸版印刷株式会社 部長 名塚一郎氏
 講演：「地域共創型XRまちづくり「PARALLEL CITY事業」の取組み」
 大日本印刷株式会社 事業開発ディレクター 小田将史氏
 トークセッション：「遠隔コミュニケーション技術の活用事例の紹介
 ～東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会と今後について～」
 ヤマハ株式会社 グループリーダー 瀬戸優樹氏
 東京都オリンピック・パラリンピック準備局 安雙里美氏
 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 園田一敦氏
 WG活動報告：「オープン光ネットワーク基盤WGの活動とB5G/6G時代の通信インフラ」
 オープン光ネットワーク基盤WG 主査 釣谷剛宏
 閉会挨拶：江見和明(関西文化学術研究都市推進機構 理事)



開会挨拶 内元清貴 (協議会運営・研究部会長)



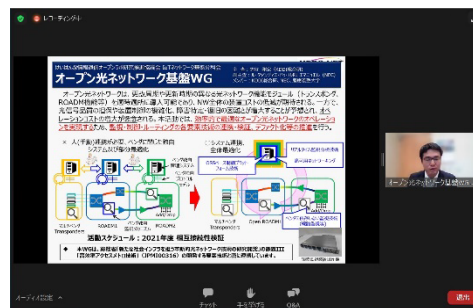
基調講演 名塚一郎氏 (凸版印刷株式会社)



講演 小田将史氏 (大日本印刷株式会社)



トークセッション 瀬戸優樹氏、安雙里美氏、園田一敦氏



WG活動報告 釣谷剛宏 (オープン光ネットワーク基盤WG 主査)



閉会挨拶 江見和明 (関西文化学術研究都市推進機構 理事)

1. 創造系活動

- ① コロナ時代の新たな活動のあり方を検討し、オンラインでの活動方策も検討するなど新たな活動テーマの立ち上げを目指す。
- ② 会員アンケート、ニーズ調査により、協議会への要望などを確認し、活動テーマへの反映を推進する。
- ③ WG活動費によるWG活動の支援を継続。

2. 促進系活動

- ① けいはんな情報通信オープンラボシンポジウム2022において、協議会20周年イベントを開催（1月～2月予定）。
- ② シンポジウムなどの開催による情報提供、人材育成の実施。
- ③ 遠隔コミュニケーション準備WGの活動と、本WGの格上げを支援。
- ④ WG活性化活動の提案募集。採択された提案には総額100万円を支給。既存・新規WG両方が対象。
- ⑤ けいはんなR&Dフェア2022において、研究活動紹介、広報活動（10月頃）。
- ⑥ ウェブサイト、動画サイトを活用した協議会活動の一層の情報発信や広報・啓発活動の強化。
- ⑦ 情報通信の研究開発にかかわる他団体（グローバルコミュニケーション開発推進協議会、AC・Net、超臨場感コミュニケーション産学官フォーラム、高度言語情報融合フォーラム等）と共催、協賛イベントの開催や情報交換、交流、連携促進。引き続き、関西ICT研究交流連絡会を通じた連携。
- ⑧ 地域の研究開発活動との連携を強化する。

3. 整備系活動

- ① 研究開発テストベッドネットワークJGNなどのネットワーク施設を含むオープンラボ施設の維持、運用と充実に向けた活動の実施。
- ② オープンラボ施設の広報の実施。

2022年度の活動計画-3

	2022年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2023年 1月	2月	3月	4月	
企画・広報分科会	● 第20回 分科会									● 第21回 分科会 (3~4月)				
創造系活動				新たな活動に向けた検討										
				WG活動支援										
				ニーズ調査、テーマ検討、体制整備										
促進系活動	→ 総会準備						→ シンポジウム 開催準備							
				随時情報発信(Webサイト&イベント案内メール送付)										
整備系活動				けいはんな情報通信オープンラボの整備・運用										
				JGNなどのネットワーク施設整備・運用										
【協議会関連】	● 第22回 運営・研究 部会		● 第21回 総会(6/16、オンライン開催)					● けいはんな R&Dフェア2022			● 協議会主催 シンポジウム 協議会20周年 イベント(1~2月)		● 第23回 運営・研究 部会 (4~5月)	
				事務局打合せを月1回程度開催										

ただし、感染症拡大予防のために、事業の中止や延期、オンライン開催などについて随時状況に応じて検討する。

○設立の背景

- ・近年、グローバル化が加速するとともに、昨今のコロナ禍により、遠隔会議によるコミュニケーションが広がり、遠隔コミュニケーションがニューノーマルとなりつつある。
- ・遠隔コミュニケーションにおいては、相手の反応が見えにくい、また、対面と比べ、伝わり方や一体感が全く違うなどの課題があると考えており、遠隔でも相互に分かり合えるようにするにはコミュニケーションの質を上げる必要があり、そのために、インターフェースとしてのXR技術もうまく組み合わせて使っていく必要がある。
- ・音声翻訳技術とXR技術の接点となる技術を見出して、うまく組み合わせて活用できれば、新たな産業の創出にもつながり、けいはんな発の技術を世界にアピールできる。賛同いただく企業等も増えて、サービスも広がっていくことが期待できる。
- ・音声翻訳技術にはGCP協議会（グローバルコミュニケーション推進協議会）があり、また、XR技術にはURCF（超臨場感コミュニケーション産官学フォーラム）があるが、両団体には接点がない。
- ・そこで、けいはんな情報通信オープンラボ研究推進協議会に、この2つの団体の接点となり、新しい技術の研究開発の受け皿となる遠隔コミュニケーション準備WGを設置したい。

○体制

主査：株式会社BRICK's

メンバー（候補）：京都橘大学の〇〇先生、家電メーカー研究者、関西の大学の研究者等

○目的、方向性

「XR技術と音声翻訳技術の接点となる技術の研究開発と社会実装に向けての調査」とし、まずは、音声翻訳技術寄りの研究開発に向けての調査から始め、XR技術の研究開発も巻き込んでいく。

- ・共同調査、共同実験
- ・競争的資金獲得
- ・セミナー、アイデアソン、見学会などの開催
- ・NICTの音声翻訳技術やXR技術との連携については調整中








○今後の予定

随時、講演会、ミーティング等を開催予定。

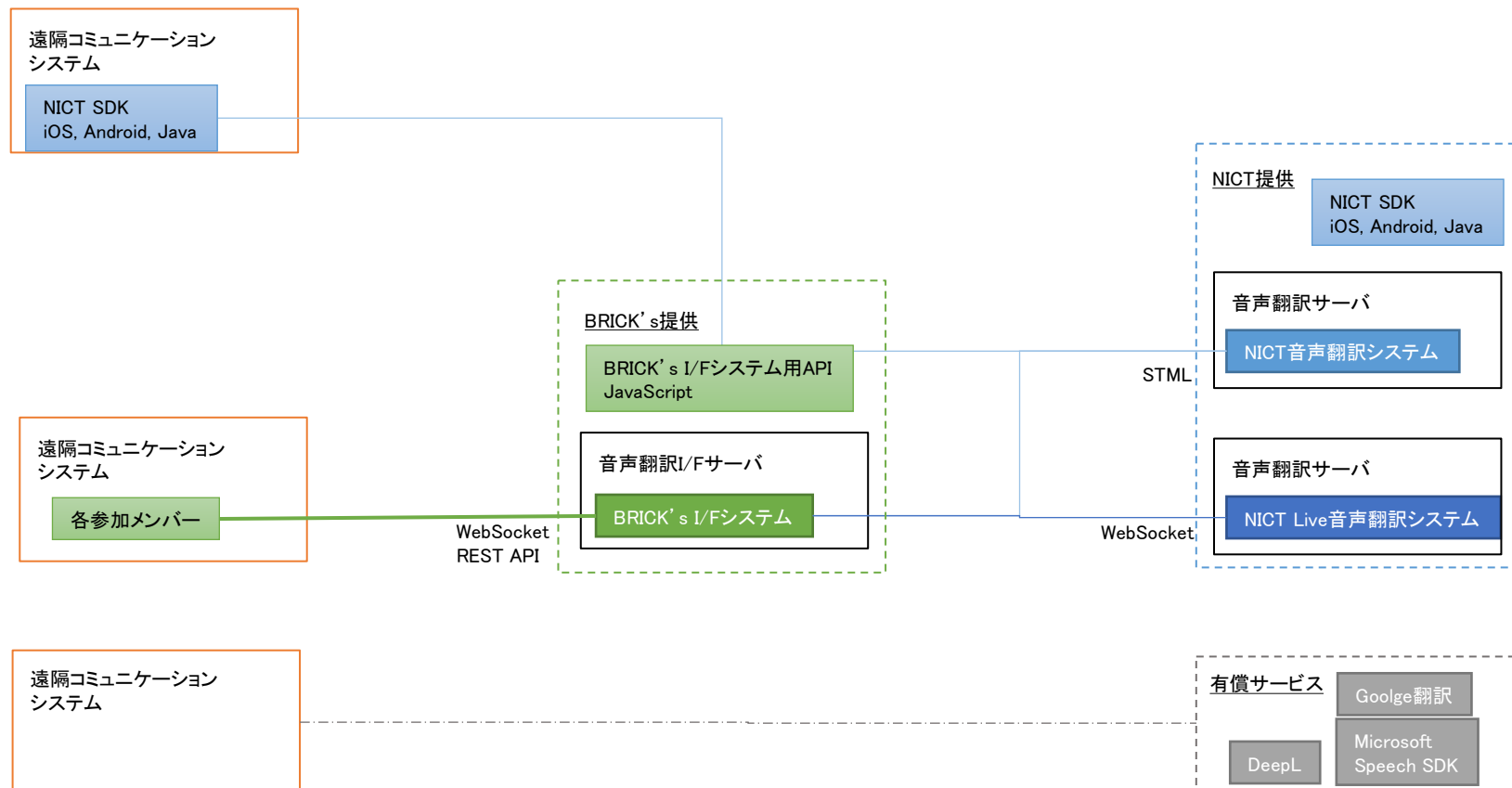
- ・専門家による講演会
- ・ユーザによる活用事例の紹介
- ・メンバー間の連携促進、交流、情報交換、コミュニティビルディング
- ・メンバー外への周知、啓発
など

遠隔コミュニケーション準備WG

○スケジュール

	2022年				2022年			2022年			2023年			
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
準備WG	 立ち上げ 参画目標:5者				10者						15者			
調査系活動	 XRデバイス、PFの調査①  音声翻訳デバイス、サービスの調査①				調査報告①	 XRデバイス、PFの調査②  音声翻訳デバイス、サービスの調査②			調査報告②					
実験系活動	 音声翻訳サーバの提供準備				音声翻訳サーバ運用開始			 試作品開発(設計検討)						
広報系活動					GCPへの紹介			URCFへの紹介						
【協議会関連】	企画・広報分科会での承認				総会での承認									

○音声翻訳サービスの提供



※有償サービスは、各社で契約